

健康増進編

1 健康手帳の交付

市区町村における健康手帳交付数は976,790人で、男377,799人、女569,137人となっている(表1)。

表1 健康手帳の交付状況

(単位:人) 平成25(2013)年度

	総数	40~74歳	75歳以上
総数	976 790	822 433	146 199
男	377 799	321 173	56 626
女	569 137	482 996	86 141

注:年齢階級別及び性別の計数が不詳の市区町村があるため、総数と年齢階級別及び性別の計が一致しない。

2 健康診査

市区町村が実施した健康診査の受診者数は105,545人で、男49,387人、女56,158人となっている(表2)。

検査結果の状況を見ると、「糖尿病個別健康教育対象者(ア)」34,164人、「高血圧症個別健康教育対象者(イ)」29,468人となっている(表3)。

表2 性・年齢階級別にみた健康診査における受診者の状況

(単位:人) 平成25(2013)年度

	受診者数	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
総数	105 545	12 807	15 315	13 056	15 441	17 940	30 986
男	49 387	5 524	8 594	7 730	8 367	8 260	10 912
女	56 158	7 283	6 721	5 326	7 074	9 680	20 074

注:1 老人保健法に基づき市区町村が実施していた基本健康診査は、平成20年度より高齢者の医療の確保に関する法律に基づき保険者が実施する特定健康診査と、健康増進法に基づき市区町村が実施する健康診査に分かれた。本報告では市区町村が実施した健康診査について計上している。
2 健康診査の受診者数は、「健康診査」、「訪問健康診査」及び「介護家族訪問健康診査」の受診者数の合計である。

表3 性別にみた健康診査における検査結果の状況

(単位:人) 平成25(2013)年度

	受診者数	検査結果								
		血圧		脂質異常		糖尿病		貧血 (疑いを含む。)	肝疾患 (疑いを含む。)	腎機能障害 (疑いを含む。)
		高血圧症 個別健康教育 対象者(ア)	高血圧症 個別健康教育 対象者(イ)	脂質異常症 個別健康教育 対象者(ア)	脂質異常症 個別健康教育 対象者(イ)	糖尿病 個別健康教育 対象者(ア)	糖尿病 個別健康教育 対象者(イ)			
総数	105 545	12 502	29 468	21 762	28 404	34 164	12 668	13 582	17 096	13 585
受診者数に 占める割合(%)	100.0	11.8	27.9	20.6	26.9	32.4	12.0	12.9	16.2	12.9
男	49 387	5 956	14 665	10 674	12 777	15 489	6 850	6 393	10 281	6 366
受診者数に 占める割合(%)	100.0	12.1	29.7	21.6	25.9	31.4	13.9	12.9	20.8	12.9
女	56 158	6 546	14 803	11 088	15 627	18 675	5 818	7 189	6 815	7 219
受診者数に 占める割合(%)	100.0	11.7	26.4	19.7	27.8	33.3	10.4	12.8	12.1	12.9

注:「個別健康教育対象者(ア)」は、特定健康診査及び健康増進法に基づく健康診査受診者のうち、検査結果から生活習慣病の発症予防等のため指導が必要な者で、平成25年度中に指導を開始した者をいい、「個別健康教育対象者(イ)」は、特定健康診査及び健康増進法に基づく健康診査受診者のうち、検査結果から生活習慣病の重症化予防等のため個別健康教育による指導が有効であると医師が認めた者で平成25年度中に指導を開始した者をいう。

3 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診

市区町村が実施した歯周疾患検診の受診者数は283,274人、骨粗鬆症検診の受診者数は312,450人となっている。

受診者数に占める指導区分の割合をみると、「要精検者」は歯周疾患検診では80.6%、骨粗鬆症検診14.6%となっている。(表4)

市区町村における平成25年度の検診実施率は、歯周疾患検診58.6%、骨粗鬆症検診61.4%となっている(表5)。

表4 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施状況

(単位:人)

平成25(2013)年度

		受診者数 ¹⁾	指導区分					
			要精検者	受診者数に占める割合(%)	要指導者	受診者数に占める割合(%)	異常認めず	受診者数に占める割合(%)
歯周疾患検診	総数	283 274	228 263	80.6	23 981	8.5	29 529	10.4
	40歳	80 262	63 271	78.8	7 529	9.4	8 954	11.2
	50歳	58 462	47 500	81.2	4 837	8.3	5 818	10.0
	60歳	63 001	51 584	81.9	5 078	8.1	6 062	9.6
	70歳	81 549	65 908	80.8	6 537	8.0	8 695	10.7
骨粗鬆症検診 ²⁾	総数	312 450	45 493	14.6	88 009	28.2	178 739	57.2
	40歳	35 333	656	1.9	3 818	10.8	30 855	87.3
	45歳	23 430	516	2.2	2 598	11.1	20 304	86.7
	50歳	35 200	1 051	3.0	4 606	13.1	29 528	83.9
	55歳	32 798	2 672	8.1	8 011	24.4	22 091	67.4
	60歳	51 017	7 745	15.2	17 872	35.0	25 350	49.7
	65歳	70 957	15 197	21.4	26 769	37.7	28 943	40.8
	70歳	63 715	17 656	27.7	24 335	38.2	21 668	34.0

注: 1) 指導区分の計数が不詳の市区町村があるため、受診者数と指導区分の計が一致しない。

2) 「骨粗鬆症検診」の対象者は女性である。

表5 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施市区町村数及び検診実施率の年次推移

	歯周疾患検診					骨粗鬆症検診				
	平成21年度 (2009)	22年度 ¹⁾ ('10)	23年度 ('11)	24年度 ('12)	25年度 ('13)	平成21年度 (2009)	22年度 ¹⁾ ('10)	23年度 ('11)	24年度 ('12)	25年度 ('13)
実施市区町村数	941	921	959	981	1 018	1 075	1 034	1 062	1 063	1 068
検診実施率(%) ²⁾	53.9	54.2	55.2	56.4	58.6	61.6	60.8	61.1	61.2	61.4
全国市区町村数	1 746	1 700	1 738	1 738	1 738	1 746	1 700	1 738	1 738	1 738

注: 1) 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県の一部の市町村(釜石市、大槌町、宮古市、陸前高田市)、宮城県のうち仙台市以外の市町村、福島県の一部の市町村(南相馬市、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、飯館村、会津若松市)が含まれていない。

2) 検診実施率=(実施市区町村数/全国市区町村数)×100

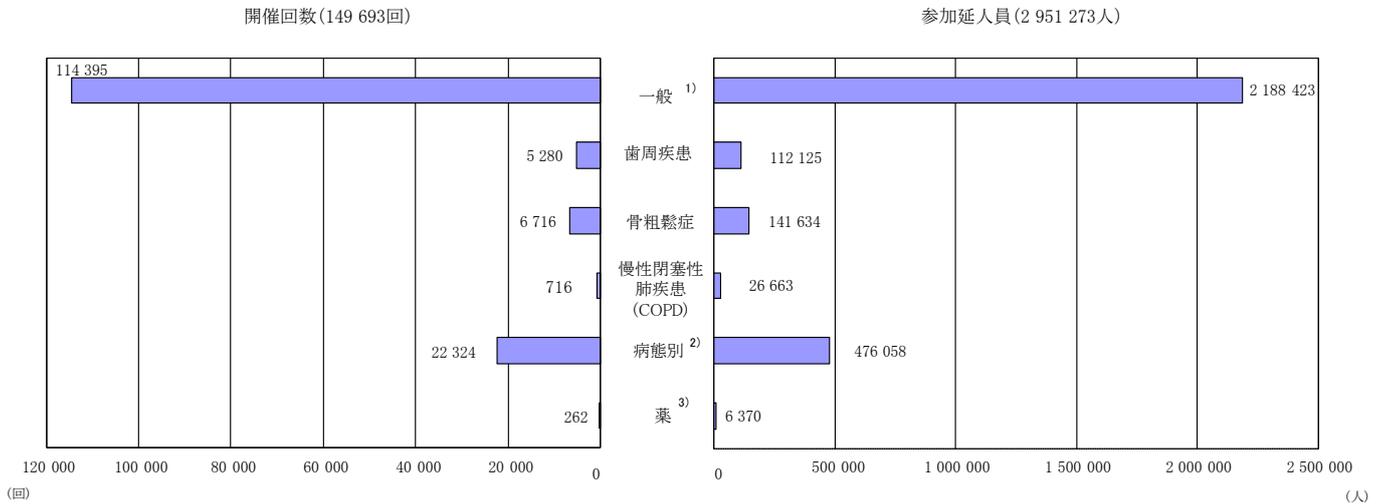
4 健康教育

市区町村が実施した集団健康教育の開催回数は149,693回、参加延人員は2,951,273人となっている。

内容別にみると、開催回数、参加延人員ともに、「一般」が最も多くなっている。(図1)

図1 集団健康教育の実施状況

平成25(2013)年度



注:1)「一般」とは、生活習慣病の予防のための日常生活上の心得、健康増進の方法、食生活の在り方等健康に必要な事項の教育をいう。

2)「病態別」とは、肥満、高血圧、心臓病等と個人の生活習慣との関係及び健康的な生活習慣の形成についての教育をいう。

3)「薬」とは、薬の保管、適正な服用方法等に関する留意事項、薬の作用・副作用の発現に関する知識の教育をいう。

5 健康相談

平成25年度に市区町村が実施した健康相談の被指導延人員は1,431,696人であり、そのうち重点健康相談は506,553人となっている。

重点健康相談を内容別にみると、「病態別」が166,114人と最も多くなっている。(表6)

表6 健康相談の年次推移

(単位:人)

		被指導延人員				
		平成21年度 (2009)	22年度 ¹⁾ ('10)	23年度 ('11)	24年度 ('12)	25年度 ('13)
総	数	1 658 638	1 537 679	1 540 898	1 443 985	1 431 696
重点 健康 相談	総	553 651	532 941	548 046	532 783	506 553
	高	88 236	85 446	100 251	84 289	83 169
	脂	25 458	24 377	24 386	24 756	25 832
	糖	30 305	30 705	34 451	36 412	33 300
	菌	83 792	84 146	81 681	85 505	82 011
	骨	107 085	104 002	108 438	104 947	99 324
	女	27 634	27 756	24 515	19 999	16 803
病	191 141	176 509	174 324	176 875	166 114	
総	合	1 104 987	1 004 738	992 852	911 202	925 143

注:1)平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県の一部の市町村(釜石市、大槌町、宮古市、陸前高田市)、宮城県のうち仙台市以外の市町村、福島県の一部の市町村(南相馬市、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、飯館村、会津若松市)が含まれていない。

2)「病態別」とは、重点健康相談の「高血圧」から「女性の健康」を除く、肥満、心臓病等の病態別に、個人の食生活その他の生活習慣を勘案して行う相談指導等をいう。

6 機能訓練

平成 25 年度に市区町村が実施した機能訓練の実施状況は、実施施設数 391 か所、被指導延人員 48,285 人となっている（表 7）。

表 7 機能訓練の年次推移

	平成21年度 (2009)	22年度 ¹⁾ ('10)	23年度 ('11)	24年度 ('12)	25年度 ('13)
実施施設数 (か所)	511	459	369	341	391
実施回数 (回)	14 195	13 647	12 582	11 473	10 747
被指導実人員 (人)	4 695	4 431	3 755	3 980	3 859
被指導延人員 (人)	75 008	70 688	54 581	54 094	48 285

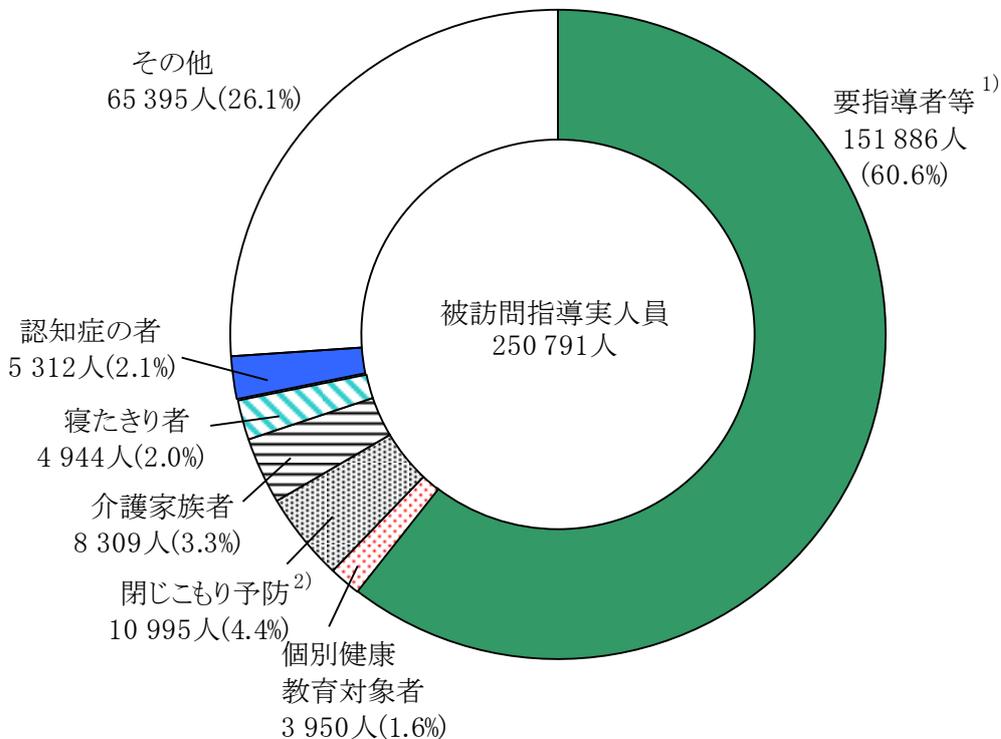
注:1)平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県の一部の市町村（釜石市、大槌町、宮古市、陸前高田市）、宮城県のうち仙台市以外の市町村、福島県の一部の市町村（南相馬市、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、飯館村、会津若松市）が含まれていない。

7 訪問指導

市区町村が実施した訪問指導の被訪問指導実人員は 250,791 人となっており、訪問指導の対象者別にみると、「要指導者等」が 151,886 人（60.6 %）と最も多くなっている（図 2）。

図 2 訪問指導の対象者別にみた被訪問指導実人員

平成 25 (2013) 年度



注:1)「要指導者等」とは、生活習慣病改善のための指導を行った者をいう。

2)「閉じこもり予防」とは、介護予防の観点から支援が必要な者で、健康管理上訪問指導が必要と認められた者をいう。

8 がん検診

(1) がん検診の受診者数及び受診率

平成25年度に市区町村が実施したがん検診の受診率は、「胃がん」9.6%、「肺がん」16.0%、「大腸がん」19.0%、「子宮頸がん」31.1%、「乳がん」25.3%となっている(表8)。

表8 がん検診受診者数及び受診率の年次推移

(単位:人)

		平成21年度 (2009)	22年度 ¹⁾ ('10)	23年度 ('11)	24年度 ('12)	25年度 ('13)
胃がん	受診者数	2 603 475	2 469 699	2 459 339	2 430 249	2 364 411
	受診率 (%) ²⁾	10.4	10.1	9.7	9.9	9.6
肺がん	受診者数	3 973 217	3 863 145	3 928 324	3 978 830	3 961 043
	受診率 (%) ²⁾	16.1	15.7	15.4	16.2	16.0
大腸がん	受診者数	3 955 100	3 916 400	4 584 068	4 704 400	4 780 888
	受診率 (%) ²⁾	15.2	15.5	17.6	18.7	19.0
子宮頸がん ³⁾ (子宮がん)	受診者数	3 989 617	4 113 335	4 058 829	4 022 053	3 933 049
	受診率 (%)	26.2	30.1	30.6	31.2	31.1
乳がん	受診者数	2 276 767	2 180 706	2 188 659	2 038 273	2 072 935
	受診率 (%) ²⁾	22.8	26.6	26.3	25.9	25.3

注:「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳まで(「子宮がん(子宮頸がん)」は20歳から69歳)とした。平成25年度調査から、この対象年齢にあわせて算出するとともに、平成24年度以前の調査についても算出し直している。「受診者数」及び「受診率」については、23~26頁「IV 用語の解説」参照。

- 1)平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県の一部の市町村(釜石市、大槌町、宮古市、陸前高田市)、宮城県のうち仙台市以外の市町村、福島県の一部の市町村(南相馬市、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、飯館村、会津若松市)が含まれていない。
- 2)受診率は、対象者数等の計数が不詳の市区町村を除いた値である。
- 3)平成24年度までは「子宮がん検診」として調査している。

(2) がん検診受診率の分布状況

市区町村のがん検診受診率の分布をみると、がん検診受診率が「50%以上」と高い市区町村数は、「子宮頸がん」が349(全国市区町村数に占める割合20.1%)と最も多く、次いで「乳がん」が269(同15.5%)となっている。一方、がん検診受診率が「0~10%未満」と低い市区町村数は、「胃がん」が626(同36.0%)と最も多く、次いで「乳がん」が393(同22.6%)となっている。(表9、図3)

表9 市区町村におけるがん検診受診率の分布状況

平成25(2013)年度

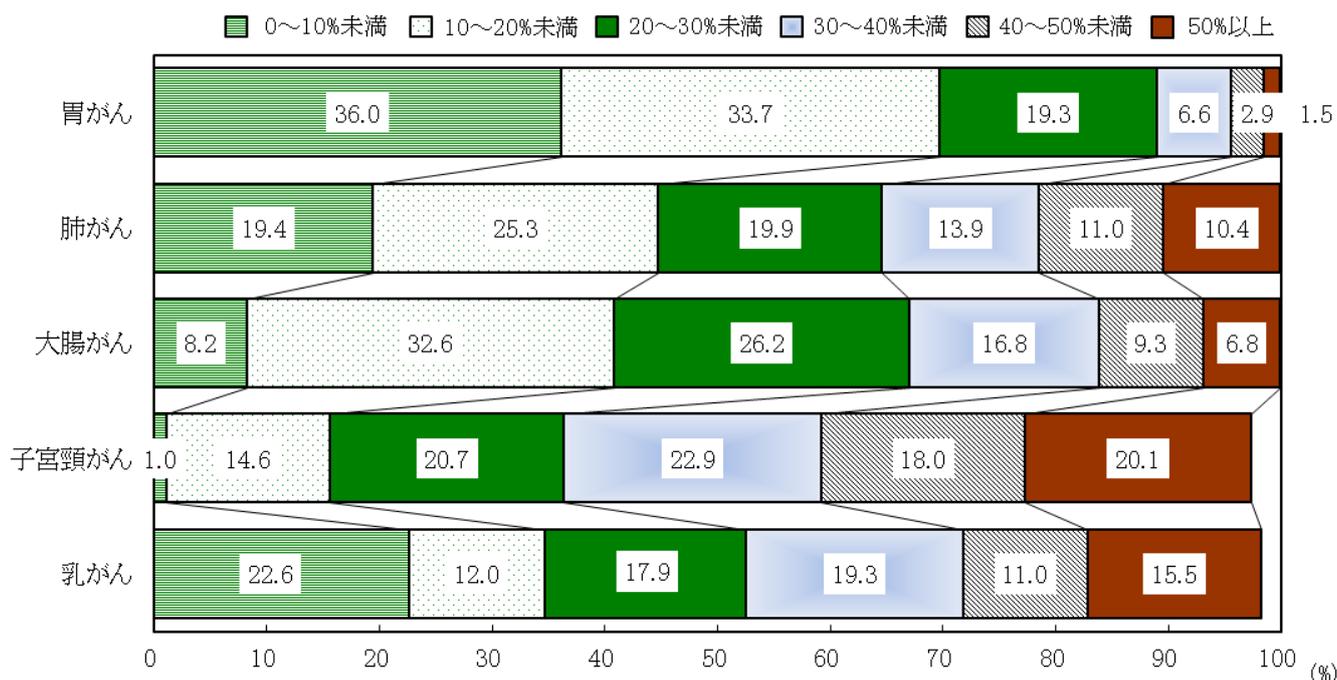
	全国 ¹⁾ 市区町村数	がん検診受診率別市区町村数					
		0~10%未満	10~20%未満	20~30%未満	30~40%未満	40~50%未満	50%以上
胃がん	1 738	626	585	335	114	50	26
肺がん	1 738	337	440	345	242	192	180
大腸がん	1 738	142	566	456	292	161	119
子宮頸がん	1 738	18	253	360	398	313	349
乳がん	1 738	393	208	311	335	191	269

注:「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳(「子宮頸がん」は20歳から69歳)までとした。「受診者数」及び「受診率」については、23~26頁「IV 用語の解説」参照。

- 1)「全国市区町村数」はがん検診受診率が不詳を含む。

図3 市区町村におけるがん検診受診率の分布状況

平成25(2013)年度



注: 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳(「子宮頸がん」は20歳から69歳)までとした。「受診者数」及び「受診率」については、23~26頁「IV 用語の解説」参照。なお、総数にはがん検診受診率が不詳を含む。

(3) 平成24年度がん検診受診者における要精密検査の受診状況

平成24年度に市区町村が実施したがん検診における要精密検査者のうちがんであった者数の、がん検診受診者数に対する割合は、「胃がん」0.11%、「肺がん」0.04%、「大腸がん」0.18%、「子宮がん」0.08%、「乳がん」0.32%となっている(表10)。

表10 平成24年度がん検診受診者における要精密検査の受診状況¹⁾

(単位:人)		平成24(2012)年度				
		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
がん検診受診者数 ¹⁾		2 426 903	3 984 878	4 714 042	4 021 402	2 030 258
要精密検査者数 ¹⁾		196 169	78 727	292 848	81 764	176 584
精密検査受診率 ²⁾	(%)	79.8	78.6	64.4	69.6	84.6
がん検診受診者数に対する割合	(%)	8.08	1.98	6.21	2.03	8.70
がんであった者数 ¹⁾		2 553	1 519	8 719	3 079	6 477
がん検診受診者数に対する割合	(%)	0.11	0.04	0.18	0.08	0.32
要精密検査者数に対する割合	(%)	1.30	1.93	2.98	3.77	3.67
精密検査未受診者数 ¹⁾		20 198	7 199	52 179	10 267	9 874
精密検査未受診率 ²⁾	(%)	10.3	9.1	17.8	12.6	5.6
精密検査未把握者数 ¹⁾		19 443	9 648	52 034	14 579	17 256
精密検査未把握率 ²⁾	(%)	9.9	12.3	17.8	17.8	9.8

注: 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳まで(「子宮がん」は20歳から69歳)とした。

1) 平成25年度に精密検査を受診し、結果が判明した者についても含めている。

がん検診受診者数については平成24年度受診者を平成25年度報告で改めて把握したものであり、「表8 がん検診受診者数及び受診率の年次推移」の平成24年度がん検診受診者数の数値とは異なる。

2) 「精密検査受診率」、「精密検査未受診率」及び「精密検査未把握率」については、23~26頁「IV 用語の解説」参照。「精密検査未受診者数」及び「精密検査未把握者数」の計数が不詳の市区町村を除いた値である。

9 肝炎ウイルス検診

市区町村が実施した肝炎ウイルス検診の受診者数は、「B型肝炎ウイルス検診」896,640人、「C型肝炎ウイルス検診」889,945人となっている。

B型肝炎ウイルス検診において「陽性」と判定された者は7,007人、C型肝炎ウイルス検診において「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定された者は4,807人となっている。

(表 11)

肝炎ウイルスに関する健康教育の開催回数は951回、参加延人員は26,602人、健康相談の開催回数は1,725回、参加延人員は9,574人となっている(表 12)。

表 11 肝炎ウイルス検診の実施状況

(単位:人)

平成25(2013)年度

	B型肝炎ウイルス検診		C型肝炎ウイルス検診	
	受診者数	「陽性」と判定された者	受診者数	「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定された者
総数	896 640	7 007	889 945	4 807
40歳	96 666	406	96 715	609
41～44歳	73 243	388	73 173	188
45～49歳	82 509	517	82 153	234
50～54歳	78 270	575	77 723	285
55～59歳	85 466	663	84 694	376
60～64歳	141 827	1 367	140 216	555
65～69歳	154 311	1 497	152 759	738
70～74歳	101 966	966	100 836	778
75～79歳	40 260	335	39 734	480
80歳以上	42 122	293	41 942	564

表 12 肝炎ウイルスに関する健康教育・健康相談の実施状況

平成 25(2013)年度

健康 教 育		健康 相 談	
開催回数(回)	参加延人員(人)	開催回数(回)	参加延人員(人)
951	26 602	1 725	9 574